

ワシントン大学・ハワイ大学からの外邦図収蔵の報告

すでに本誌では、第2次世界大戦中から戦後にかけて軍事用地図を多数作製したアメリカ陸軍地図局 (Army Map Service) が、その余剰地図をアメリカ各地の大学ならびに図書館に配分した経過にくわえ、さらにそのうちドイツや日本からの接收地図 (Captured maps) を配分された大学ならびに図書館のリストを掲載した (外邦図研究ニューズレター 9号、2012年)。2002年以來この配分の中心になったアメリカ議会図書館 (Library of Congress) の地理地図部 (Geography and Map Division) が収蔵する外邦図を継続して調査する一方で、配分された接收地図に注目するのは、そのなかから日本の諸機関収蔵の外邦図には見られない図が発見されるのではないかという期待があるからである。またアメリカ議会図書館収蔵の外邦図は膨大で、この間同地理地図部の協力を得て進めてきた作業については、「初期外邦測量原図データベース」におさめたような手描きの原図の整理に時間をとられ、他の地図の調査に時間をさく余裕がないこと、くわえて同地理地図部には日本語のできるスタッフがいないという事情もあって、印刷図の多くについては、一時的な分類作業は終了しているものの、本格的な目録作製までに至るには、まだ多大な時間を要することもこれに関連する。

このようななかで、今年の2月ワシントン大学 (University of Washington) に外邦図が収蔵されているというニュースが、東北大学の上田元教授にその知人の方からもたらされた。この連絡をうけて、たまたま前年 (2013年) の12月に京都大学時計台で開かれた PNC Annual Conference でお会いした同大学東アジア図書館 (East Asia Library) 司書の田中あずささんに問い合わせたところ、その一部の写真を送っていただいた。田中さんはその後も外邦図に強い関心を持ち、調査を続けられている。

さらに7月になって、ハワイ大学図書館 (University of Hawai'i at Mānoa Library) の Government Document & Map Department 司書の カラージェラス・ミーゲンさんから日本語のメールに添付された同大学の外邦図コレクションに関する報告原稿 (やはり日本語) を受け取った。たいへん興味深い原稿で即座に本号に掲載させていただくことにした。またこれに際して、日本の読者にもわかりやすくするために、少し補足していただくことになった。

本誌は、印刷本だけでなく、PDF版もインターネットを通じて公開している。印刷物は読者の手元に届くまで時間がかかるし、郵送費が必要だ。これに対して PDF版は、費用が最小限ですみ、カラーの図も読者に届けられる。しかし日本語だけの本誌では、国際的には限界があると思っていた。ただし今回の投稿を受け、カラージェラスさんのような日本語に通じた方が外邦図の整理に当たられることを思えば、このような形での公開にも、それなりの意義があることを知ることになった。この点でもカラージェラスさんに感謝したい。本誌10号掲載の後藤さんの報告 (アメリカ北太平洋測量艦隊の測量の解説と地図目録) に対しても海外から反響があったとのことで、英語版を刊行するのはなかなか困難な本誌ではあるが、こうして外邦図に関心を持つ方々の情報交換の場になる可能性が出てきたことを喜びたい。

ところで、カラージェラスさんの報告ならびに田中さんからサンプルとして送っていただいたワシントン大学蔵の外邦図の写真を見て感じるのは、カラージェラスさんの指摘するように「特殊な外邦図」が見られる可能性である。ハワイ大学のものについては、カラージェラスさんの報告を参照していただくとして、田中さんからお送りいただいたワシントン大学の外邦図の写真を例に少しだけ以下のように考えてみた。(小林 茂)

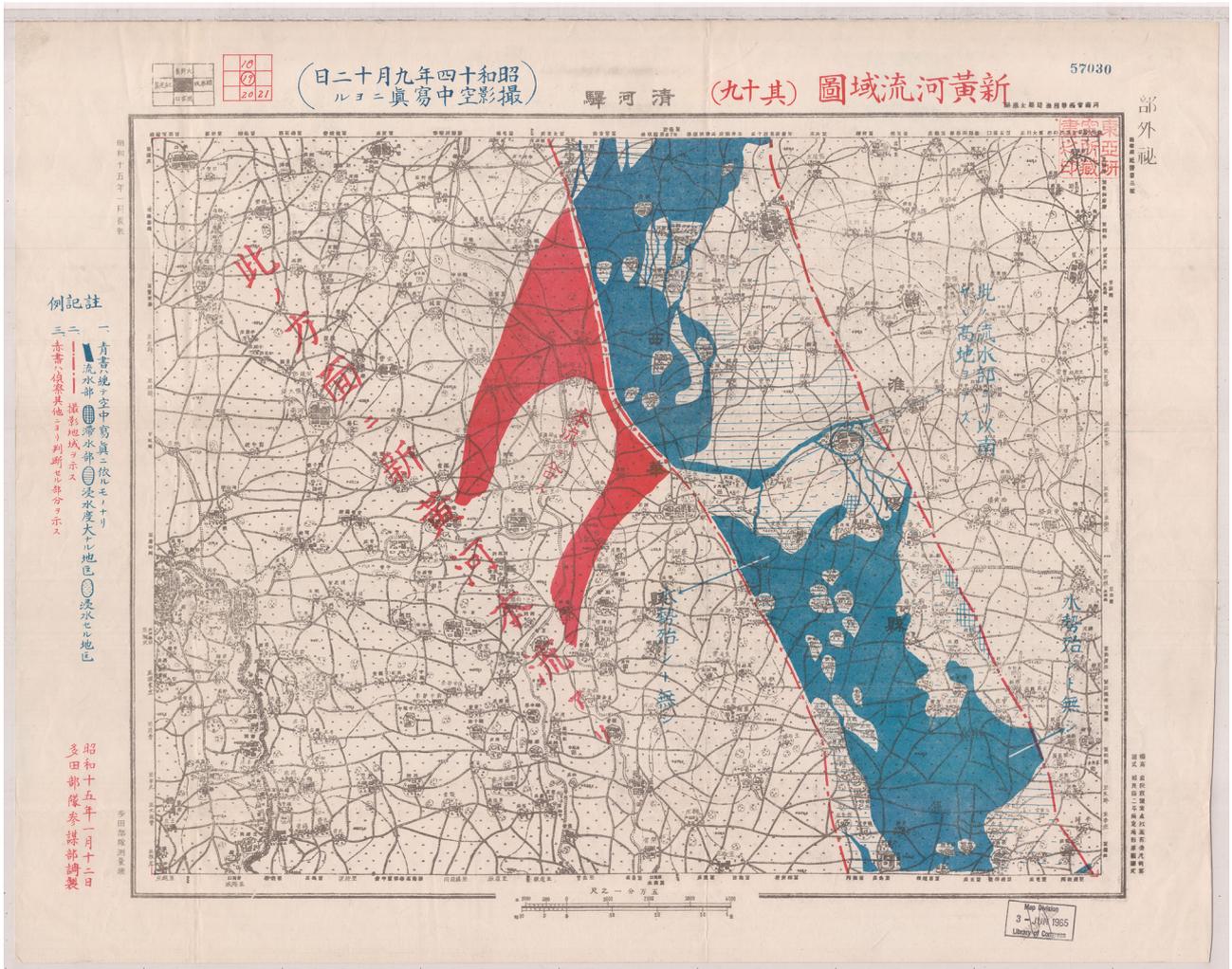


図1 ワシントン大学図書館蔵「新黄河流域圖 其十九」1940年、多田部隊

図1は「新黄河流域圖」で、20枚以上の5万分の1図でワンセットになる。その目的は1938年6月に発生した黄河の堤防の決壊による洪水の範囲を示すところであり、ここではそのうち19番目の図を示している。この堤防の決壊は、日本軍の進撃を止めるために中国国民党軍が発生させたもので、日本軍北支那方面軍（多田部隊）が、その後1年以上経過した1939年9月12日に撮影された空中写真をもとに、浸水範囲を図示しようとしたものである。この5万分の1図の元図は、隣接する20番目の図から、1920年の測量図をもとに、1935年に中国側の河南省陸地測量局が複製したものであることがわかる。これを多田部隊が入手して、浸水範囲を記入することになったわけである。図示範囲は河南省東部で、北から南東に洪水となった範囲を図示するが、空中写真の範囲（一点鎖線で示す）が限られており、西側に新たにできた黄河の本流があると注記しているのは、その規模の大きさを示唆する。

なお、この図は右上の朱印から東亜研究所に所蔵図であったことがわかる。東亜研究所は1938年に設立された国策研究所で、アメリカ議会図書館が収蔵する戦時期アジア関係資料には、この研究所で接收されたものが多い。

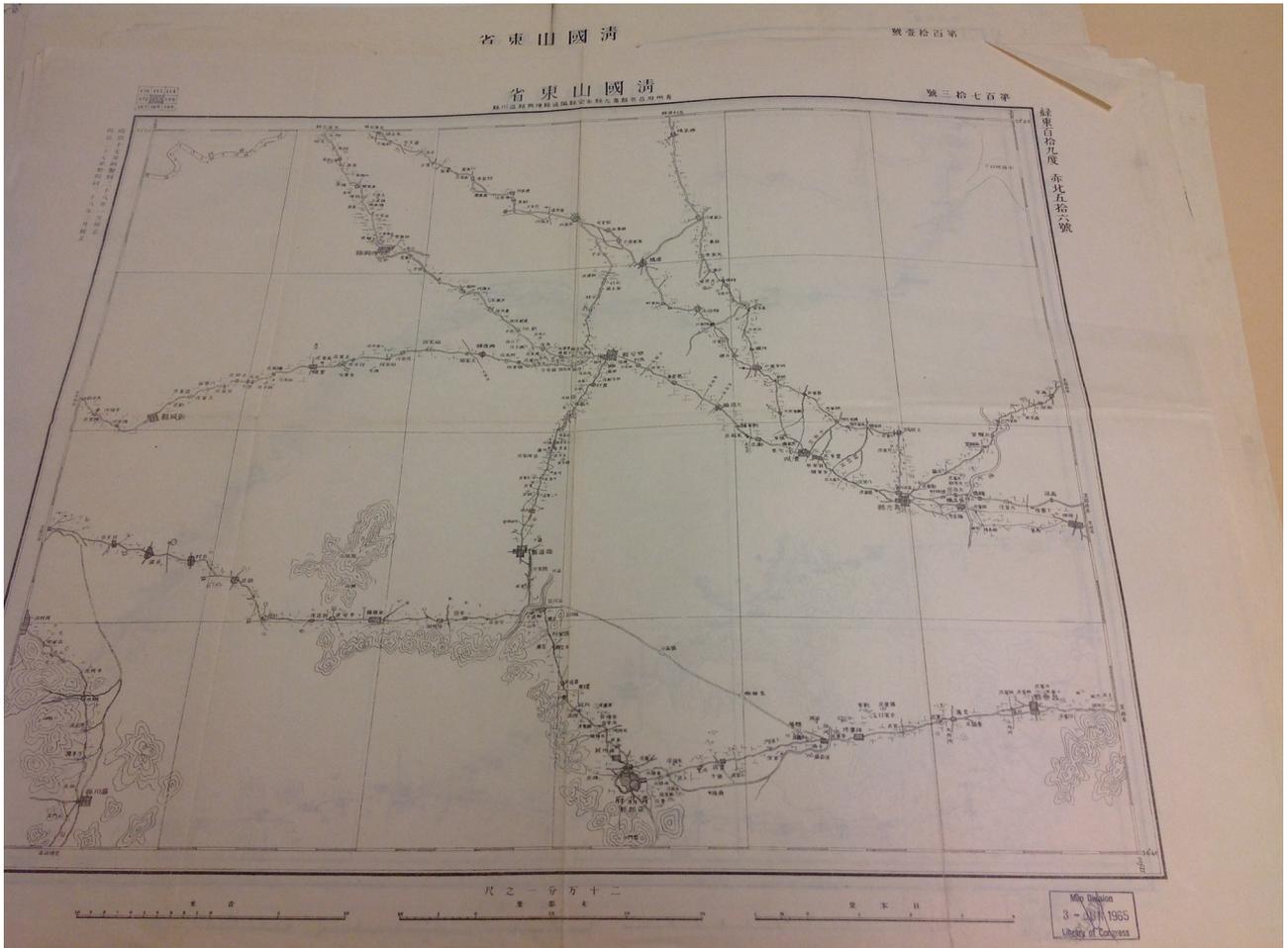


図2 ワシントン大学図書館蔵、清國二十万分一圖、1890年代、陸地測量部

図2は、一転して古く明治期の20万分の1図となる。この図群は1880年代に行われた日本陸軍将校による中国大陸旅行中の簡易測量データをもとに作製されたもので、本号掲載の小林ほかによる「アメリカ議会図書館蔵『新國二十万分一圖』の解説と目録」が検討する図群に属す。この図群は中国大陸の盛京省（現遼寧省）南部、直隸省（河北省の一部）・山東省を全67枚でカバーするが、多くの図幅について複数の版のあることが知られている。日本国内所在のこの図群は限られており、古書として市場に出るのもまれである。そうした図がワシントン大学に収蔵されているのは注目される。また、上記報告に示したように、アメリカ議会図書館蔵のこの図群は、同図書館に1960年7月と1961年1月に受け入れられているが、図2の場合は、抹消された右下の印から1965年6月に同館にいったん受け入れられ、その後重複が確認されてワシントン大学に配分されたことがうかがえる。アメリカ議会図書館蔵のこの図群は、全部の版をカバーしていないことが明らかであり、重複の確認がどのように行われたか不明であるが、ワシントン大学の図群についても本格的な調査が望ましい。